

病理診断科

【当院の病理研修の特性・特徴】

地域の中核病院、がんセンターとして豊富な症例や希少症例の経験ができ、実践的な病理診断に有用な知識、手技を学ぶことができる。豊富な抗体や機器等を用いて、様々な検討を行うことができる。又、全国に先駆けて行っている病理外来の見学が可能である。

【一般目標】

- 1) 診断病理学に必要な基本的な知識、技能を身につける。
- 2) 医療者の一員として診療に従事することで、医師としての責任感、職業的な技能、思考法、態度を、自らの実践の中で学ぶ。
- 3) 講義で学んだ知識を再確認し、また、講義では得られなかった、より実践的な知識を身につける。

【到達目標（行動目標）】

- 1) コミュニケーションを通じ、病理技師及び他科医療者、患者等と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 基本的な診断知識に基づき、臨床医から診断に必要な情報を収集し、取捨選択して整理できる。
- 3) 病理所見を適切に理解し、所見を解析して、診断に必要な情報を収集できる。
- 4) 主要な疾患を理解し、鑑別診断を挙げることができる。
- 5) 病理診断科領域で用いられる主要な検索法について、概要、有用性、限界を説明し、結果を解釈できる。
- 6) 病理診断科領域における主要疾患について、症候、病態、診断、治療を説明できる。
- 7) 収集した情報を基に、病理診断報告書を作成できる。
- 8) 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで報告することができる。
- 9) 診療に必要な知識・情報（MEDLINE やインターネット上で公開されている各種の診療ガイドライン等の電子化情報を含む）を、適切に検索・収集することができる。
- 10) コミュニケーションを通じ、病理技師及び他科医療者、患者等と良好な人間関係を築くことができる。

【注意事項】

- 1) 端正な服装を心がけ、清潔な白衣を着用すること。ネームプレートを付け、靴を履くこと（サンダルは禁止）。
- 2) 患者さんや他の医療スタッフと接する際には大人としての礼節を保ち、態度、言葉遣いに気を配ること。実習に協力していただくことに対する感謝の気持ちを忘れないこと。
- 3) 守秘義務、個人情報の管理には常に留意し、患者さんのプライバシー保護にも気を配ること。また、予断や想像に基づく無責任な情報は決して伝えないこと。
- 4) 欠席、遅刻の場合は必ず届け出ること。

【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日午前中にオリエンテーションを行う。
- 2) 第1週の月曜日に指導医を割り当てるので、以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。指導医の受け持つ作業と一緒にいき、病理医の1人として診断に参加すること。具体的にどのような行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぐこと。
- 3) 病理所見、また、その後行われた検索の結果など、病理医が報告書に記載すべき事柄については、すべて学生用の報告書に記載すること。これは医師が実診断に使う病理診断システムとは別物であるが、病理医として実際に診断報告書を書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。
- 4) 他科との合同カンファレンスの際には、症例の概要と診断を簡潔に指導医に提示すること。また、既定の時間内で発表できるよう診断情報をまとめ、事前に準備しておくこと。